

たつみようすいたみのいしづえ
辰巳用水民々礎
いなばさこんやかたのば
稻葉左近翁々場

加賀前田家三代当主「前田利常」の時、金沢城へ用水を引き入れる「辰巳用水」の建設工事が完成しました。



菅原伝継手習鑑 東奥の場

別々の主人に仕える梅王丸と桜丸が、吉田神社の近くで行き会います。梅王丸は菅原家再興に奔走する一方で、菅丞相の元へ行きたいと考え、行方不明の御台所を捜し歩いています。桜丸は、加茂堤で親王と姫の恋の取り持ちをしたために菅丞相が左遷になつたと責任を感じており、死んでお詫びをと考へていますが、その時期を逸しています。一人は近々行われる父親の七十歳の賀の祝いに三兄弟夫婦そろつて祝うことが親孝行であり、一人でも欠けることがあれば、父親に対してまた不忠をすることとなる、今は互いに我慢、と話し合います。

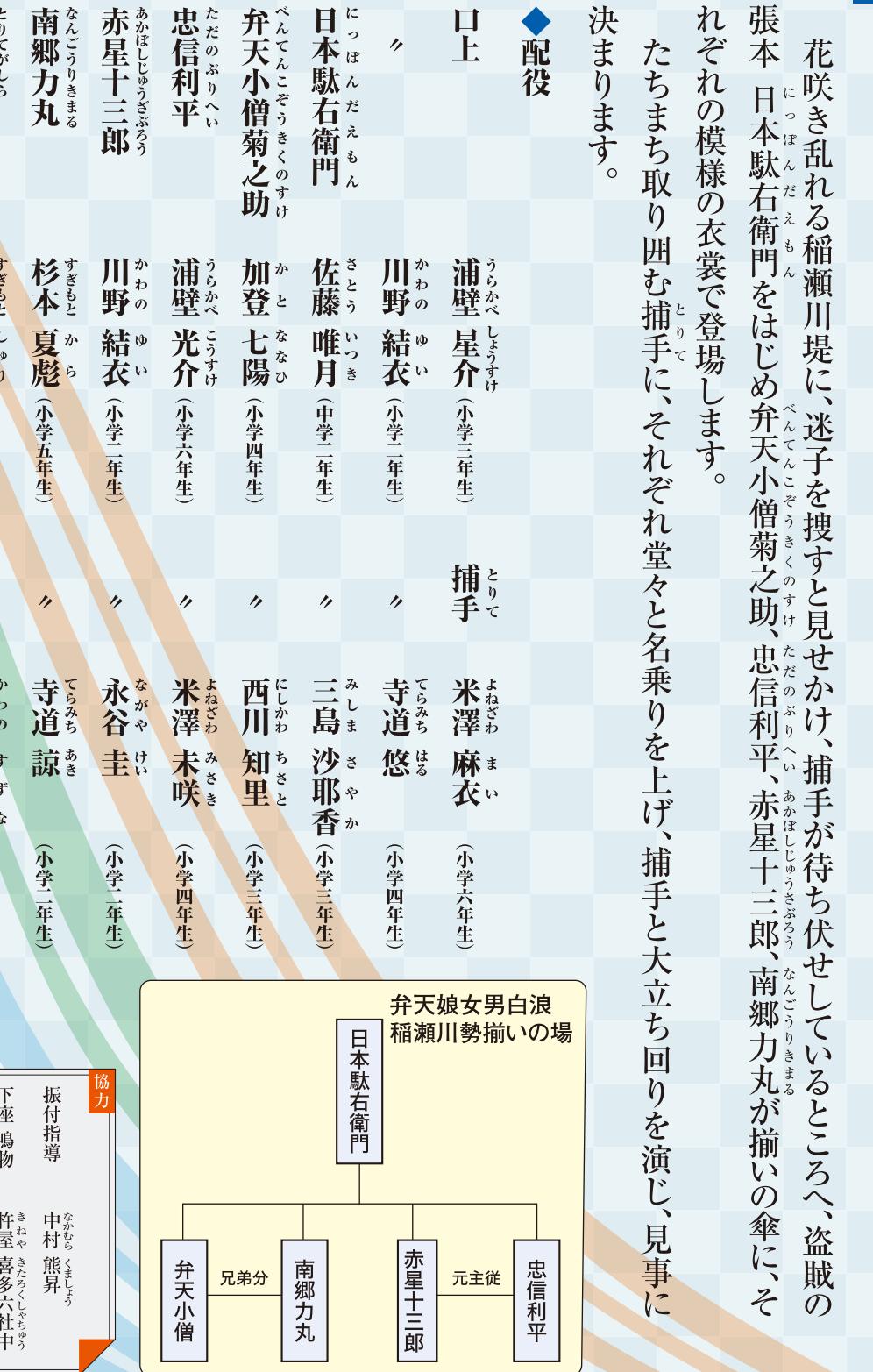
そこへ、敵である左大臣藤原時平が吉田神社参拝に通りかかります。一人は時平の牛舎の前に立ちはだかります。時平の舍人杉王丸とやるやらぬと押し問答しているところへ、松王丸が狼藉を働く二人を鎮めようと現れます。時平への忠誠を示すため、血を分けた兄弟である二人に対しても引こうとしません。そのとき時平は車を蹴破つて現れます。天下の実権を握りみかど気取りの時平は、一人を睨み据えます。その眼光は鋭く梅王丸、桜丸はどうとでもなれと身を投げ出します。時平は松王丸の忠義に免じて一人を許します。

敵討ちする松王丸と梅王丸、桜丸は、親の賀の祝いを済ませた後で決着をつけることを約束して別れていきます。



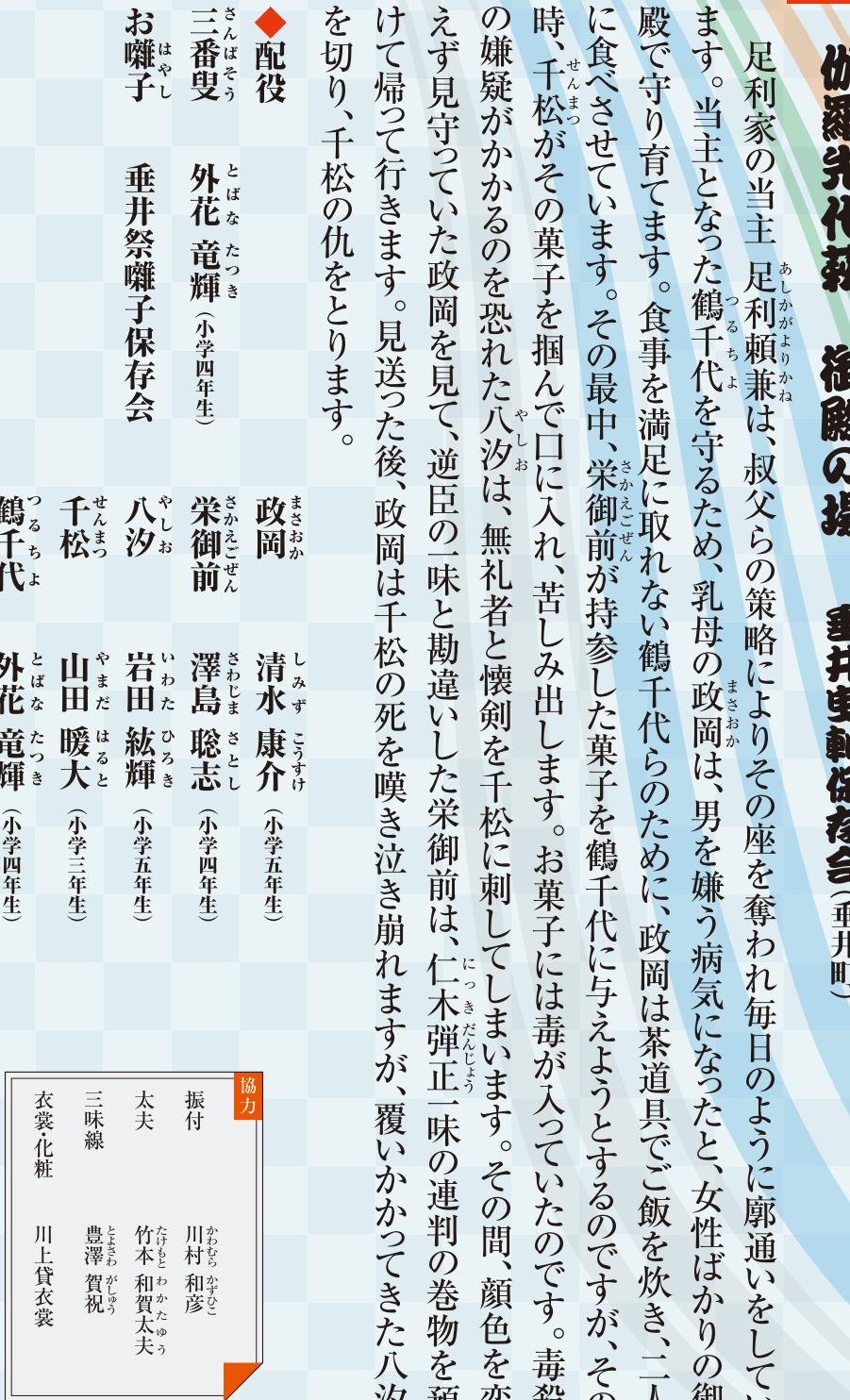
べんてんむすめめおのしらなみ
弁天娘ぬ男白浪
いなせがわせいそろ
縚瀬山勢猶ひの場

花咲き乱れる稻瀬川堤に、迷子を搜すと見せかけ、捕手が待ち伏せしているところへ、盜賊の張本日本駄右衛門をはじめ弁天小僧菊之助、忠信利平、赤星十三郎、南郷力丸が揃いの傘に、それぞれの模様の衣裳で登場します。



めいばくせんだいはぎ
ごてん
ば

足利家の当主 足利頼兼は、叔父らの策略によりその座を奪われ毎日のように廓通りをしていきます。当主となつた鶴千代を守るため、乳母の政岡は、男を嫌う病気になつたと、女性ばかりの御殿で守り育てます。食事を満足に取れない鶴千代らのために、政岡は茶道具でご飯を炊き、二人に食べさせています。その最中、栄御前が持参した菓子を鶴千代に与えようとするのですが、その時、千松がその菓子を掴んで口に入れ、苦しみ出します。お菓子には毒が入つていたのです。毒殺の嫌疑がかかるのを恐れた八汐は、無礼者と懷剣を千松に刺してしまいます。その間、顔色を変えず見守っていた政岡を見て、逆臣の一昧と勘違いした栄御前は、仁木彈正一味の連判の巻物を預けて帰つて行きます。見送つた後、政岡は千松の死を嘆き泣き崩れますが、覆いかかつてきました八汐を切り、千公の仇をとります。



月より地芝居大国ぎふ応援大使に就任。

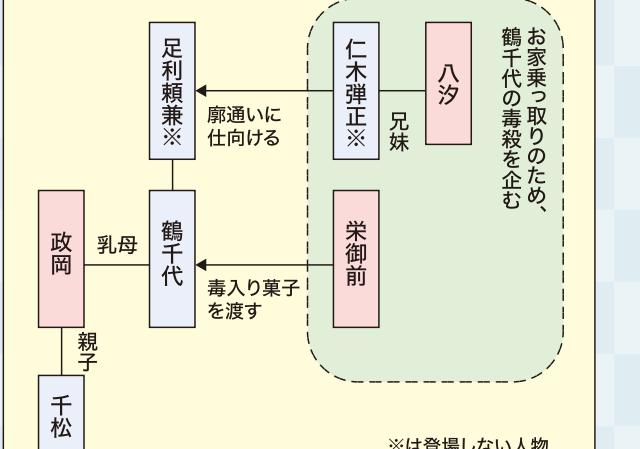
演が日本伝統文化の発展を目的として全国で開催している。「教養として学んでおきたい歌舞伎」、「教養として学んでおきたい能・狂言」、「僕らの歌舞伎」、「文楽のツボ」ほか著書多数。令和四年四月



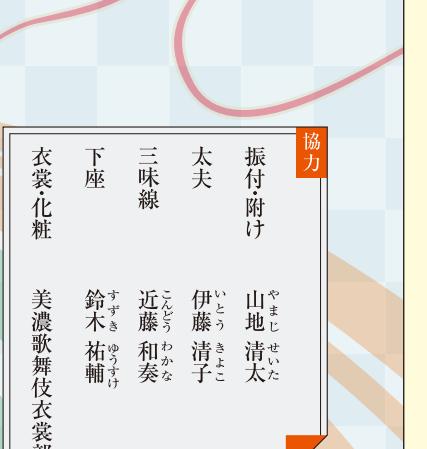
100

表。名古屋三曲連盟理事長。令和元年度名古屋市芸術特賞受賞。著書に『常磐津節の基礎的研究』(和泉書院、一九九一年)、東洋音楽学会田辺尚雄賞受賞)、安田徳子氏との共著に『歌舞伎入門』(おうふう、一九九五年)、『ひだみの地芝居の魅力』(岐阜新聞社、二〇〇九年)などがある。

伽羅先代萩 御殿の場



菅原伝授手習鑑 車曳の場



辰巳用水民之礎
稻葉左近館之場

